

福岡都市計画都市高速鉄道 連続立体交差事業 西鉄天神大牟田線 第3弾 (春日原～下大利)

新駅の完成予想図が出来上がりました。

人が集う 歴史を感じる ゆとりのエントランス



春日原駅

【イメージカラー】 春日原の由来である春かすみ → 桜色
 【イメージマテリアル】 ガラスの勾玉(須玖岡本遺跡群) → ガラス

ここから始まる 人と人とのコミュニティエントランス



白木原駅

【イメージカラー】 牛頸川、御笠川の水 → 薄水色
 【イメージマテリアル】 白木原駅付近の大野小学校のセダンの木(大野城市の天然記念物) → 木

古(いにしえ)と緑につながる やすらぎのエントランス



下大利駅

【イメージカラー】 大野城跡、水城の自然 → 若芽色
 【イメージマテリアル】 水城の土壌 → 土

大野城市は中央部にJRと西鉄の2本の鉄道が走っており、利便性の高いベッドタウンとして発展してきました。その一方で、鉄道による街の分断や踏切による慢性的な交通渋滞などの問題も抱えています。この問題を解決していくために、西鉄天神大牟田線春日原～下大利駅間において、「連続立体交差事業」が行われ、鉄道が高架化されます。また、この高架事業に合わせ、側道や駅前広場の整備、区画整理等の事業が行われ、まちの様子が変わっていきます。春日原～下大利間で除去される踏切の数は、12踏切です。

西鉄天神大牟田線は、福岡(天神)を起点に、二日市・久留米・柳川などの諸都市を經由し、大牟田までの74.8kmを約63分(特急)で結ぶ路線です。車両数300両、営業キロ95.1km、駅数62、輸送人員9,558万人、

一日平均26.2万人が利用しています。そして、市内の駅別乗降人員(平成29年度1日平均)は、春日原駅21,703人、白木原駅9,456人、下大利駅15,618人です。平日の春日原駅には、395本(福岡方面198本、大牟田方面197本)の列車が発着し、土・日祝日は、341本(福岡方面171本、大牟田方面170本)です。

作業は、終電通過後の午前1時に電力線を停電し、午前1時から3時30分までの2時間30分の夜間作業で行われています。午前3時30分から4時30分で後片付けを行い、午前4時30分から5時の間に、電車が安全に運行できるように軌道や電気・信号設備の点検・整備が行われ、午前5時30分の始発を迎えます。このような夜間作業が繰り返されています。



2021年 春の高架化完成に向かって!!